

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. 理念に基づく運営</b></p>			
<p><b>1. 理念と共有</b></p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>その人らしく生活する事を支える理念を全スタッフの話し合いのもとで作りに上げている。</p>	<p>これまでの理念を見直し、住み慣れた地域の中でも安心した暮らしが出来るように柔軟な支援を理念の中へ盛り込む必要があり、再度スタッフ間の話し合いにて作り上げていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の採用時、月1回の職員会議・ケースカンファレンス、又申し送り時にも理念に触れ確認し合い取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念はホールの見える場所へ掲げている。家族へは見学時・入居時にも分かりやすく説明し、ホーム便りでも活用し、行事等への参加を地域の皆さんへも呼びかけ伝えるようにしている。</p>	<p>隣近所の方が気軽に多くの皆様にホームを訪問出来るように呼びかけていきたい。</p>
<p><b>2. 地域との支えあい</b></p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>職員の中にキャラバンメイトに参加し地域認知症の普及活動に取り組んでいる。日常的に散歩や買い物等で挨拶を交わしたり話しをしたりしている。ホームの行事へも呼びかけ、気軽に立ち寄って頂けるように取り組んでいる。</p>	<p>地域の一員として地域の活動に参加し交流が出来るように取り組んでいきたい。又車椅子利用者の入居者の皆さんへも、もっと交流の機会を増やしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>外部研修とかホーム内研修において全スタッフが理解し、必要時に支援出来るように体制作りに努めたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>配慮しているものの、業務の流れ等において感情的になり暴言的になることもあり、更に互いに注意を払いながら防止に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>現在は家族会の発足はないまでも、年1回程度行事の後に家族会的な話し合いの場を設けている。更に家族会を設けて、家族同士が意見を出し合える場を出せる仕組みを検討していきたい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を希望した場合には引継ぎの時間を十分にとり、ダメージを最小限に抑え、異動に対して常日頃より各ユニットのスタッフが行き来し入居者へ不安を与えないように配慮している。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内研修会や外部研修に参加し報告し合うと共に腹命書において閲覧できるようにしている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国・県・地区のグループホーム協会へ加盟し研修会へ参加すると共に交流会へも参加し情報交換やサービス向上に努めている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩の時間・場所があり、日ごろがストレスを抱えないように申し送り時や親睦会の機会に話しやすい環境作りに努めている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も現場に良く来ており入居者と会話を持ったり、職員とも話す機会を作っている。又資格取得へ向けた支援と勤務実績に応じた研修へ参加を勧めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者によっては、通所での利用開始より、求めている事や不安を理解しようとしたケースもある。家族が困っている事、不安な事を把握し受け止め、利用後も機会あるごとに聴くように努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時介護支援専門員、又関係機関からの情報を得ながら状況を確認しあい、支援の提案等を話し合いながらサービスの向上に努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者自身や家族が見学し雰囲気を見て頂いたり、管理者が自宅へ訪問し情報を収集し環境面では馴染めるように配慮している。短期入所、通所介護利用から入所へ繋がった入居者もおられる。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の得意分野を把握し、生活の技や知識を教えて頂いている。普段より昔の唄、調理や畑仕事で教えて頂く場面を設けている。</p>	<p>共に過ごし学んだり支えあったり、出来るように入居者と向き合い一緒に過ごす時間を多くしたり声がけを工夫し和やかに生活出来る環境を作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所して日が浅い入居者は家族の協力を得て、それまでの生活状況を聞きサービスに結び付けている。面会等を通じてホームでの状況を伝え、相談しながら共に支えている思いを共有している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事には一緒に参加を勧め、面会時にはゆっくり過ごして頂けるように支援している。又希望に応じて外出・外泊についても配慮している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて家へ出かけたり、ご主人の入所先へ面会に出かけたり、親戚との関係が途切れないように面会を支援したりしている。		更に馴染みの関係等が途切れないように入居者の声を聞き、一緒に出かける等を行い途切れないように支援していきたい。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	昼食時や毎日の水分補給時ではスタッフも一緒にゆっくりと会話をもつようにしている。孤立している入居者については、スタッフが個別で対応している。又入居者同士が見守りを申し出る等で支え合っている。		入居者同士の関係、係わり合いを把握しながらも、いつも良い関係が保てない場合も観られる為に、更に注意深く見守りしていきたい。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院後も見舞いへ出かけて状況の把握に努めている。相談を受けた家族へは応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で言動・表情に気になる事は意向を聴き、話し合いをしている。意思を伝える事が困難な入居者は家族等から情報を得ながら進めている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に自宅へ訪問したり、入居者自身や家族又関係者から生活歴やなじみの物等を聴き把握に努めている。</p>	<p>情報の把握に努めているものの、不足している点多々観られる為により工夫が必要である。又サービス利用の経過等も合わせて、関係機関からも積極的な情報収集に努めていきたい。聞き取りの情報収集だけではなく記入方式も検討していきたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日の過ごし方も家族等から情報を得る共に、入居後も把握している。一人一人の出来る事はケースカンファレンスでも確認し、役割となるようにお願いし実施へ向けている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスにおいて意見を出し合いながら、思いを見つめた上で、モニタリングも行いながら介護計画を作成している。家族へも伝え意向・意見を確認している。</p>	<p>家族も参加してのカンファレンスは開催できないまでも、意向・意見の確認は更に努力していきたい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3～4ヶ月で見直しを実施。状況の変化や入居者自身又家族からの要望に応じて随時相談しながら見直しをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状況を記入する業務日誌、個別のケース記録、又水分摂取量を記録し、勤務前に確認し情報の共有すると共に計画の見直しに活かしている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通所介護、短期利用共同生活介護の事業を展開しており、要望に柔軟に対応している。又医療連携体制加算も実施し、より安心し暮らして頂けるように提供している。</p>		
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員は運営推進会議の委員でもあり、意見交換を積極的に行っている。ボランティアも適宜お願いしている。消防署とは避難訓練とか救急法の講習会を通して働きかけている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ケアマネジャーやサービス事業者とは連携を取っている。美容院の来訪をお願いしたり、近隣の美容院へ出かけたり、温泉を利用したりしている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>利用者では権利擁護事業、成年後見制度を活用している方がおられる。現在は特に包括支援センターと協働しているわけではないが、常に支援体制はある。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し、馴染みの医療機関が継続できるように配慮している。ホームでも協力医は確保しており、変える場合には説明し同意のもと行っている。状態変化又受診状況は伝えている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医は認知症に関して学んでいる。スタッフが相談したり、入居者が治療や診断を受けられるように支援している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を確保し、24時間指示が受けられる体制がある。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、医療機関側とも情報交換、相談に努め、入居者が安心して過ごせるようお見舞いしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と相談しながら、家族とも話し合い入居者が安心した終末期を過ごして頂けるように看護師を含めスタッフとも共有しながら支援している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の出来る事と出来ない事を見極め、かかりつけ医とも相談しながら、スタッフへも伝え共有しながら努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からグループホームへ入所する場合には情報交換と共に馴染みの品々の持込をお願いし、ダメージ防止に努めている。又他事業所への住み替えについても情報提供を行いダメージを防ぐように努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の声かけ時や失敗時の声かけ時にも自尊心を傷つけないようにとさり気無い対応の徹底を日ごろより徹底し、勉強会や申し送り時の折にも確認している。記録等の個人情報に配慮し、決められた場へ保管している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で選択できるような場面・雰囲気作りや声かけ、対応を心がけ自己決定を大切にしている。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態や意思を確認しながら、買い物、散歩、ドライブ等希望に沿って柔軟に対応している。動作がゆっくりな入居者には出来るだけ合わせているが、他入居者との関係もあり希望通りの支援が出来ない事もある。		スタッフ間のチームプレイを大切にし、ひとり一人のペースを大切にした支援を強化していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じて馴染みの美容院へ出かけている、又定期的に美容院の訪問をお願いし、好みのスタイルが出来るように支援している。洋服選び等は意思を尊重しながら支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューには好きな物をいれ、入居者の出来る範囲において準備、調理、後片付け等を一緒に行っている。又昼食はスタッフも同じテーブルで一緒に会話を 楽しみながら摂っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的 に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好を把握し、煙草については一定のルール(喫煙場所、夜間帯は保管のお願い)のもとで喫煙を お願いしている。その他おやつ等では一緒に買い物へ 出かけ好きな物を楽しめるように支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンやリズムを把握し、プライバシーへも配慮しさり気無く誘導している。なるべく日中帯はトイレでの排泄へ取れ組み、オムツ着用も少なくするようにし、 下着に尿とりパットの着用等に対応している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間帯はある程度決まっているものの、他ユニットを活用し毎日の入浴が可能であり時間帯(夜間帯はまだ実施がない)も希望を取り入れながら支援している。		時間帯については、声かけをしながら更に希望を取り入れいきたい。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状態に合わせて休息を促し、夜間安眠が出来るように軽体操、散歩等を勧め生活リズムの調整を図っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活で出来る作業(家事全般、畑作業、花への水やり等)を見つけてお願いし、感謝の言葉を常に伝えて いる。歌を歌う、買い物又遠出の外出では希望を聞きながら行っている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行動に合わせながら金額は家族等と話し合いながら勤めており小額を持っていたり、事業所が管理している入居者もいるが、買い物の機会や場面作りで使えるように支援している。		更に外出の機会やホーム内での行事等において支援出来る機会を増やしていきたい。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別での買い物等への外出も支援している。天候・入居者自身の状態に応じて、散歩、買い物、ドライブ等を楽しみ、歩行困難な方も車椅子・シルバーカーを活用して楽しんでいる。		冬期間の外出の機会を天候を見ながら増やしていきたい。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足、外出では希望を取り入れ、日常会話の中からも行きたい場所を汲みとり、機会を設けて支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は届いた際には必要に応じて読む等の対応をし、電話も要望に応じて電話はかけられように支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問ができ、居室やホール等でゆっくのと寛げるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りやケアカンファレンス、又事故等の新聞等の切り抜きの回覧で理解を促し、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の戸締りは夜間帯のみであり、日常的に自由に入りを支援しつつ、事故防止の対策をとりながらも行動をキャッチしながらさり気無く散歩に行く等で支援している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール内にいるスタッフ間で見守りをしている。夜間帯ほぼ2時間間隔で巡視をしており、又事務所からも音とか歩行時には見守りが出来る体制にある。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・薬剤関係は手の届かない場所への保管し配慮しながら使用している。包丁は台所を離れる際には保管に注意を払い、鋏・裁縫箱等の使用時には際配慮している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行動・状態に応じて想定される事故を検討し、転倒・誤飲・誤薬・行方不明等では対応方法を検討し工夫していると共に、事故発生後には報告書により事故原因を明らかにし今後の予防策を検討している。		想定される事故等について、些細なことから意見を出し合い、更に意識し予防に努めていきたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の講習会を実施し習得に努め、マニュアルを作成し、いつでも拝読出来るようにし、意識向上を図っている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下年2回避難訓練と消火器の使い方の訓練を実施している。運営推進会議でも話題にし、地域の皆様に協力を呼びかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時や行動の変化について家族等には説明し、予測されるリスクも話し理解が得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックと入居者の顔色とか食欲状態、様子の変化に応じてスタッフ間で情報を共有し、状況により医療機関の受診へと繋げている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに整理し、スタッフが把握・確認出来るようにしている。内服時はきちんと手渡し服薬を確認している。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立には乳製品や食物繊維の多い物を取り入れると共に毎日ホームの特性ジュースにおいて便秘予防に努め、散歩や軽体操で身体を動かし自然排便に努めている。排泄の状況・水分摂取量の把握も実施している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、誘導をし、介助が必要な方には必要に応じて援助し口腔内の清潔に努めている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を献立作成時で週1回、隔月で1週間実施。個別性に応じて食物の形態を工夫し、水分摂取量や残量も把握し情報を共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する情報収集を行い、スタッフが予防出来るように努め、入居者・スタッフ共に手洗いうがい・インフルエンザ予防接種を実施。ペーパータオルとか個別のタオルの使用を徹底している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	取り決めのもと調理器具は衛生管理に心がけ、毎晩まな板、布巾等は漂白消毒、食器類は週1回実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を植えたプランターを置いたり、祝日には国旗を掲げ、行事に合わせた飾り等で家庭的な雰囲気配慮している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り付けは季節ごとに入居者と一緒に行い、心地良い空間となるようにしている。台所での作業の音が聞こえるようにとか音楽もかけ工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や風除室にはベンチを置き、ホールには食卓テーブル、ソファ、テレビを置くことで入居者同士が寛げるスペースを確保している。気の合う入居者同士は互いの居室でも寛いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には馴染みの家具等の持ち込みをお願いし、持ち込まれ安心して過ごされるように工夫している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室には温度計を設置し、適宜換気扇もかけ調整を図っている。ホール内も適宜換気し、トイレは換気扇と消臭剤にて悪臭が出ない工夫をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の状態に合わせ手すり等を取り付け安全確保と自立した生活が送れるように工夫し、身体機能低下により車椅子等での生活されている方へも配慮している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>状況に応じて環境整備を行い状態が変わり、新たな行動が生じた場合にはスタッフ間で話し確認し、わかることを探りながら力を取り戻せるように工夫している。トイレには赤い暖簾を下げ、居室が分からない入居者のみ名前つける事に対応している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地内に東屋と畑があり、涼みながら談話・飲食・作業を楽しみ、風除室にはベンチを置き日向ぼっこを楽しむ等の工夫をしている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・身体機能が低下し車椅子利用者が多い中でも出来る事をお願いしながら、現在持っている機能が維持出来るように努めている。  
又利用者の希望(特に食べ物、外出先等)を取り入れ、自分らしく暮らせるアットホームな場となるように努めている。
- ・月1回のケースカンファレンス、隔月でのホーム内研修を全スタッフで行い、より統一性が図れるうにし、スタッフ間コミュニケーションの強化、質の確保に努めている。